

# 令和3年度特別企画展「ミツバチと花の“おいしい”関係展」について

久保晴盛・濱谷修一

## はじめに

植物公園では、年に1度、自主企画の特別企画展を開催している。テーマは毎年変えており、今年度はミツバチと訪花植物をテーマとして「ミツバチと花の“おいしい”関係展」を2021年7月31日（土）～8月26日（木）（広島県『緊急事態措置』の実施に伴う臨時休園のため途中打ち切り、当初日程は8月31日（火）まで）の日程で開催した。企画の経緯と展示や関連イベントについて、以下に記す。

## 展示会の目的

今回の特別企画展では、昆虫の中でも身近なミツバチのなかまに焦点を当て、ミツバチと植物との共存共栄の関係を掘り下げることで、多様な生きものの世界や身近な自然環境について、こどもを含む幅広い来園者に広く伝えることを目的として企画した。

## テーマ選定について

テーマ選定に際しては、2018年11月～2019年6月にかけて中国新聞朝刊に連載された特集「旅するミツバチ」に取材協力したことが大きなきっかけとなった。同連載では、園内でミツバチが訪花する様子を撮影したほか、記事に用いる植物の同定を園芸相談として対応した。その過程で、ミツバチが吸蜜する多彩な訪花植物を接写した写真素材を目にする機会があり、これらの写真をパネル展示で紹介できれば面白い企画になるのではないかと意識するようになった。

また、植物公園の指定管理者である（公財）広島市みどり生きもの協会では、広島市森林公園こんちゅう館の指定管理も受託しており、ミツバチを含めた昆虫を専門とした職員（昆虫技師）が在籍している。そこで、ミツバチに関する資料を保有していないか照会したところ、同館では2004年～2012年にかけて、「春のミツバチフェスタ」というイベントを開催したことがあり、当時の資料をそのまま保管しているとの

回答があった。

これらの資料は、養蜂やそれを取り巻く環境の紹介（中国新聞社）、昆虫としてのミツバチの紹介（こんちゅう館）を目的として各々に作成されたものではあるが、大きな生態系の中でのミツバチ・花・人間の関わり（“おいしい”関係）として整理し、植物の視点から深く掘り下げることで、多様な生きものの世界を伝えることができると考え、今年度の特別企画展のテーマに選んだ。

## 展示内容の検討

まず、展示の導入（イントロ）として、会場の入口正面に養蜂の作業風景をモチーフにしたジオラマを設置することとした（写真1）。過去の展示会でもココヤシが流れついた浜の再現（種子の不思議展）や巖島神社の大鳥居の縮小模型（宮島の植物展）などを同じ位置に配置したことがあるが、どのような催しを室内で行っているのかを視覚的に端的に伝えることができ、記念写真の撮影にも使われるなど、来園者の評判が高かったので、今回も同様の手法を採用することにした。



写真1 養蜂作業をモチーフとしたジオラマ

また、中国新聞社提供の訪花写真は額装して展示することとし、ミツバチの特徴や生態などはこんちゅう館所蔵の模型人形で図示することで、全年齢に向けて分かりやすい展示を目指すことにした。レイアウト等の展示概要や会場風景などについての詳細は次項に示す。

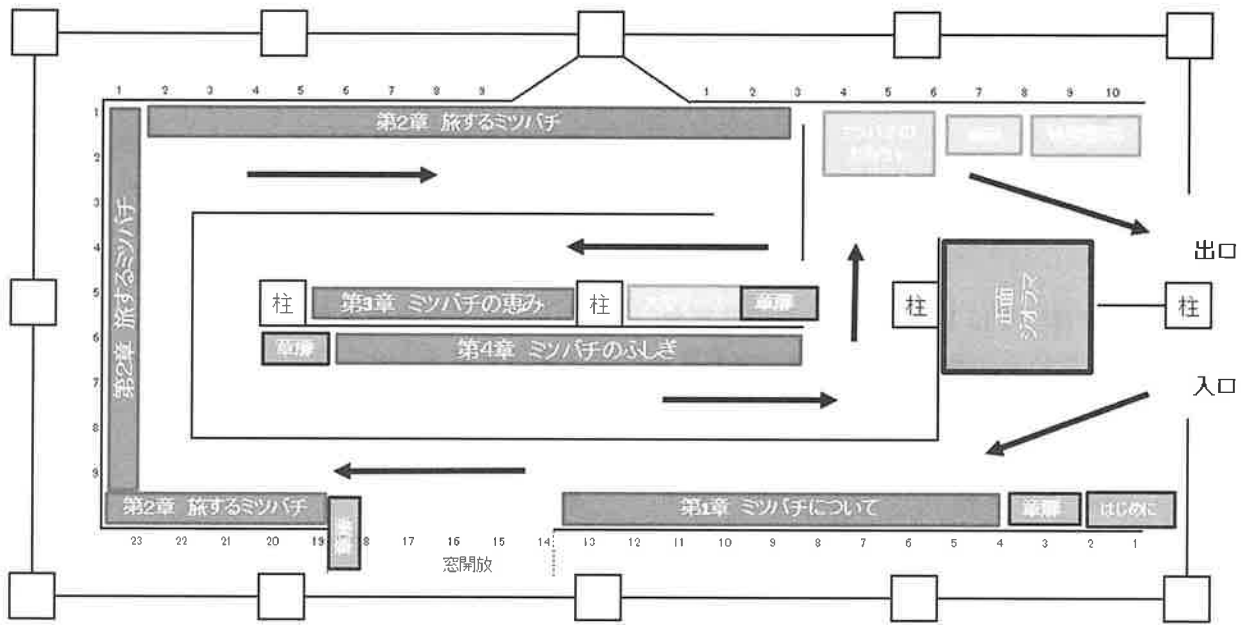


図1 会場レイアウト

### 展示概要・レイアウト

今回の展示では、大きく4つの章立てを行い、ミツバチ・花・人間の関わり（“おいしい”関係）を体系的に学べるように工夫した（図1）。

#### 第1章 ミツバチについて

こんちゅう館監修のもと、ミツバチの種類や特徴、生態（卵から成虫になるまで）などをパネル6枚で解説した。また、複雑なライフステージを子どもでも理解できるように、ミツバチハニー小劇場「働きバチの一生」と題したミニコーナーを作り、働きバチの仕事について、壁付けにした模型人形で表現した（写真2）。

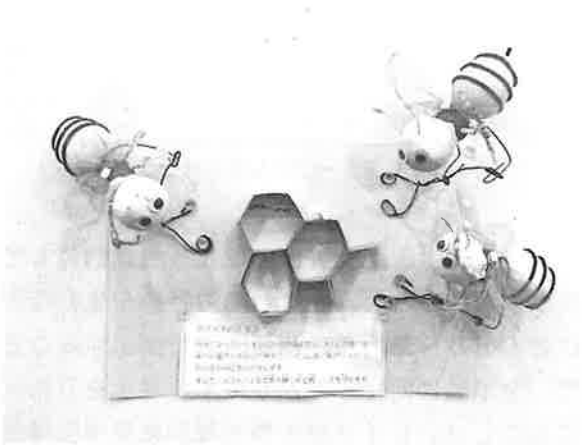


写真2 働きバチの一生（模型人形）

#### 第2章 旅するミツバチ

中国新聞社提供の訪花植物の写真30枚を植

物公園で印刷し、額装した上で掲載された紙面とあわせて展示した（写真3）。写真には解説（花期や特徴など）をつけることで、被写体の花について理解を深めることができるように工夫した。



写真3 旅するミツバチ（訪花植物の写真展示）

#### 第3章 ミツバチの恵み

養蜂の歴史や蜂蜜の特徴などについて、養蜂用具の展示とあわせてパネル14枚で解説した（写真4）。蜂蜜の種類や特徴についての紹介は本章での目玉となる展示ではあったが、コロナ禍であるため、試食などの体験コーナーは設けず、蜂蜜サンプルなどのケース展示にとどめた（写真5）。



写真4 養蜂用具の紹介



写真5 蜜源植物による蜂蜜の色の違いの展示

#### 第4章 ミツバチのふしぎ

前の1～3章で紹介できなかった「ミツバチを取り巻く環境問題」や「花とミツバチの関係」などのトピックス的な内容を中心に様々な話題を取り上げて解説した(写真6)。

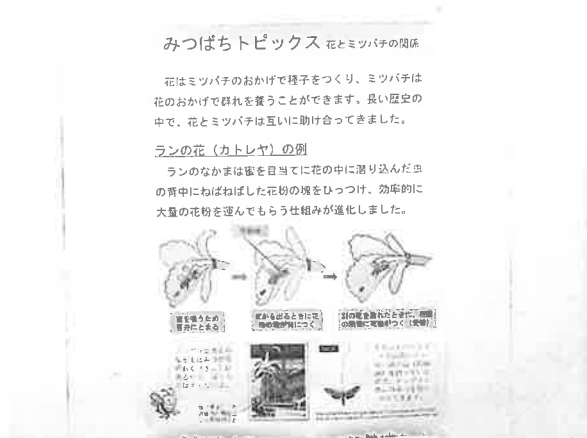


写真6 みつばちトピックス

#### 関連イベント

関連イベントとして、以下の4つの催しを企画した。企画にあたっては、夏休み期間中の主

な来園者であるこどもとその家族を念頭に置いた。なお、コロナ禍の現況で接触型・体験型のイベント実施が難しいということで、クラフト体験や園内ガイドなどの実施は見合わせることにした。

ギャラリートークおよび職員による植物うんちく語りは、広島県「新型コロナウイルス感染拡大防止のための早期集中対策」の実施に伴い、会期中の8月3日(火)から原則として主催イベントを中止・延期することとなり、いずれも中止した。

#### (1) みつばちクイズラリー (図2、図3)

園内6か所(大温室 [①バナナ]、サボテン温室 [②ウチワサボテン]、花の進化園 [③カンナ・⑤ハス]、④里山の野草園 [④オミナエシ]、レストラン前花壇 [⑥ヒマワリ])にそれぞれ問題パネルを設置し、入園口で配布した回答用紙に○×で回答するセルフ型のクイズラリーを実施した

(図2、図3)。

### サマーフェア 2021 みつばちクイズラリー

みつばちのすきなはなのヒミツをみつけよう!  
ぜんぶみつけるとカルビーのおかしをプレゼントするよ!



#### こたえ (〇×でこたえましょう)

①バナナ	②ウチワサボテン	③カンナ
④オミナエシ	⑤ハス	⑥ヒマワリ

図2 みつばちクイズラリーの回答用紙

## みつばちクイズラリー ①

もんだい：お店で売っているバナナに種はあるかな？

こたえ：ある ○ / ない ×

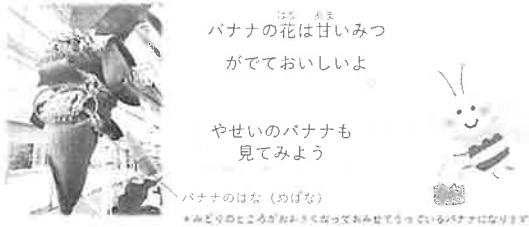


図3 みつばちクイズラリー 問題の例

クイズラリーは小学生以下を対象に、期間中毎日実施した（平日は先着100名、土・日・祝日は先着200名）。臨時休園を除く計31日間にのべ2988名の参加者があり、完走者は約8割の2367名であった。なお完走者には、参加記念品として、サマーフェアに協賛いただいている（株）カルビーより提供を受けたお菓子をプレゼントした。

### （2）特別企画展講演会

7月31日（土）13時から、展示資料館2階講堂において、特別企画展講演会「ミツバチのはなし」を開催した（写真7）。講師は広島市森林公園こんちゅう館の松尾主任技師に依頼し、ミツバチの特徴や恵みなどを昆虫の専門家の立場からわかりやすく解説いただいた。参加者は45名で、子どもと家族連れの様子が目立ち、講演後には質問が多くあり活況であった。



写真7 講演会の様子（講師の松尾主任技師）

### （3）ギャラリートーク [中止]

8月3日（火）・24日（火）各10時から、会場において、担当職員が展示内容を解説するギャ

ラリートークを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症が拡大したため中止となった。

### （4）職員による植物うんちく語り [中止]

8月28日（土）11時から、展示資料館2階講堂において、「植物が子孫を繋ぐ仕組み（受粉・散布）」をテーマに植物の専門家の立場から昆虫との関わりを解説する講話を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症が拡大したため中止となった。

### まとめ

開催期間（7月31日～8月26日）の計18日間の総入園者数は6,503名であった。新型コロナウイルス感染症の拡大期と会期が重なったため、展示を実施することは出来たものの、多くのイベントが中止となり、例年と比べて展示をご覧いただける方が減ってしまったのは残念であった。

一方で、夏休み期間の学びとしての展示会の目的は一定程度達成することができた。多くの幼児・小学生が水遊びだけではなく、クイズラリーを通じて園内の植物を観察する機会を作ること成功した。また、模型や実物を多用した展示にすることで、パネルのみの展示と比べて興味を持ってもらえる展示になったと考えている。

今回の展示会では、昆虫と植物の関係を取り上げたが、こんちゅう館の全面的な協力の下、展示内容を深化させることができた。これまでの特別企画展では、植物そのものに深化したテーマを主として選定していたが、時には今回のように動物公園・こんちゅう館との繋がりを生かして、広く生きものの奥深い世界を伝えることができるようなテーマ選定も検討していくと良いと感じた。

### 謝辞

本展示会には、（株）中国新聞社に記事紙面と写真データを提供いただきました。記者の桜井邦彦さん、カメラマンの山本誉さん、河合佑樹さんにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。また、こんちゅう館と養蜂家の光源寺毅寿さんには展示に関して様々な助言をいただきました。ここに深く感謝の意を表します。